

朝日連峰山開き

6月15日(日)朝日連峰開山に伴う安全祈願祭が鳥原小屋(山形県大江町)にて行われ、行政機関・山岳会・避難小屋等の団体、一般登山者等が集い、今シーズンの安全を祈願しました。

当日は古寺鉾泉登山口(大江町)から、センター職員3名と中村森林事務所森林官(山形署)と一緒に、少し肌寒いくらいの登山日和の中、登山を開始しました。

今シーズン初めての本格登山でも有り、センター職員も少し不安もありましたが、約3時間で鳥原小屋へ到着。安全を祈願した後、鳥原山(標高:1,430m)へ移動して昼食をとりました。



鳥原山頂から左が小朝日岳

現在、朝日連峰は夏山シーズンの最盛期を迎えています。

当センターでは今年1年間の無事故を心に誓いながら、地域の関係者とともに、朝日山地森林生態系保護地域の保全管理業務を通して、朝日連峰の高山植物や素晴らしい景色などの魅力や自然の大切さを地域の皆さんへ発信していきたいと思ひます。

月山開山祭

7月1日(火)月山開山祭へ参加しました。当日は小雨の降る中、センター職員3名と庄内署職員3名で約2時間半で月山山頂(標高:1,984m)へ到着。安全を祈願した後、約1時間半で無事下山しました。



ニッコウキスゲ

月山では月山登頂はもちろんですが、月山8合目駐車場から20分程度で湿原をご覧いただくことも可能で、1時間~2時間程度でも楽しく高山植物達とふれあい満喫することが可能です。梅雨が明け、暑さが厳しくなったら、綺麗な景色を見ながら涼んではいかがでしょうか。



鳥原小屋にて安全祈願

鳥原山では小朝日岳(標高:1,647m)、大朝日岳(標高:1,870m)などを望みながら、見渡す山々の景色に感動と敬意を払いながら、今回は登頂することを密かに心に誓いました。下山途中の畑場峰(標高:1,093m)での朝日山地森林生態系保護地域入口表示板(当該地域の説明と入山マナー啓発等)について、古い看板を撤去し新しい看板の設置を行いました。下山後半の1時間弱は膝の痛み(時にはカニ歩き)と闘いながら約2時間で無事下山しました。



小看板(区域の説明等)

編集後記

ここ鶴岡市では、梅雨期なのに雨は少ない感じです。昨年の悪夢のような豪雨もなく、安心しているところですが、西日本では相当の降雨被害が発生しており、今後の天候状況に気をつけて行動したいと思ひます。

さて、平成26年度に入り、4ヶ月が過ぎようとしています。本広報誌については、第2版を発刊することができ、こちらに関しましても、ホッとしています。

今回の話題(ネタ)は、バラエティーに富む内容となりました。

各種会議、保育園での森林環境教育、朝日自然塾、朝日連峰及び月山の開山等、話題が盛り沢山でした。

右の写真に3名しか写っておりませんが、身体の事情により、やむなく登山できなかった次第です。そう言う当人も、7月上旬に腰痛を患い、2週間ほど戦線離脱してしまいました。

日頃から疲れを溜めぬよう気をつけていきたいと思ひます。

(おぐ)



小朝日岳をバックに



第 1 4 号
平成26年 7月発行

朝日庄内森林生態系保全センター

〒997-0404

山形県鶴岡市下名川字落合3

TEL: 0235-58-1730

FAX: 0235-58-1731

E-mail: t_syounai_f@rinya.maff.go.jp

Home Page: http://www.rinya.maff.go.jp/to

hoku/syo/asahi/

朝日山地森林生態系保護地域管理委員会

6月5日(木)、山形市の山形県自治会館において、朝日山地森林生態系保護地域管理委員会が開催されました。

はじめに、ボランティアの巡視活動やモニタリング調査結果及び計画について話し合われました。朝日山地の保全管理のための対策としては、入林者に対するマナー向上のためにQRコードの活用について新たに提案があり、これまでの普及啓発活動に加えて検討することとしました。また、モニタリング調査については、これまでの調査の継続と調査地の拡大についての要望がありました。さらに、関連して東北森林管理局内の全職員等を中心としたチェックシートによるニホンジカの日撃情報を収集することの報告がありました。

続いて、朝日庄内森林生態系保全センターの業務の見直し概要、スノーモービルの乗り入れ関係、マツノクロホシハバチの対応、管理計画書の一部面積変更等、森林生態系保護地域内での自然再生の森づくり、朝日山地の写真募集、朝日自然塾プログラムなどの報告事項を含めてご審議いただきました。その中で、森林生態系保護地域内での自然再生の森づくりについては、溪畔林から高山帯までの様々な森林環境があることから、その森林の遷移を十分に注視しつつ、将来目指すべき姿を描きつつ森林の特性を踏まえて取り組んで欲しいことや施業による積極的な実施についての提言などがありました。今回は山形県みどり自然課から山形の多様な生態系の情報を整理したパンフレット「生物多様性の保全と持続可能な活用に向けて」について、つながっている森→川→里→海の説明があり、今後とも県・地元関係機関と連携した保全管理の取り組みに努めていくこととしています。



管理委員会

朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議(春季)

夏山シーズン前の6月14日(土)、鶴岡市の朝日山村開発センター(すまいる)で巡視員会議を開催しました。新たに登録された5名の巡視員への委嘱状の交付の後、今年度の巡視活動方針等について意見交換を行い引き続き



巡視員会議

保全のご協力をお願いしました。平成25年度からは森林生態系の区域を示す小看板についてGPS写真等を活用したデータ化に取り組んでいます。また、朝日山地の魅力や保全活動の大切さをPRするために地域で活躍している巡視員の皆さんから「朝日山地の写真」を秋まで募集しています。応募作品は各イベントでの掲示などで活用することとしています。



新規巡視員へ委嘱状を交付

みどいの保育園

○(チョッキン草刈隊)雨天時の森林環境教育

6月12日(木)、平成19年度に保育園のそばに植栽したクロマツの下刈作業を保護者と一緒に実施する予定でしたが、雨天により室内で森林クイズ等を実施しました。



「うは、変なおい」

当日は、ネイチャーゲーム(私はだれでしょう)や「葉が針のようになってる」「建築材として使われている」などの特徴をヒントに、葉に触ったり、臭いを嗅いだりして木の名前を当てるクイズや、スズメ、カラス、ツバメなど身近な鳥の写真から、鳥の名前や、鳴き声を当てる『身近な鳥たち(鳥たちの鳴き声を当てよう、覚えよう)』クイズ、親子でコミュニケーションを取りながら絵を書く『伝言ゲーム』などを行いました。

最後に、室内での森林クイズをみんなで楽しくがんばったので、当センター特製のメダルを全員にプレゼントしました。

○クロマツ探検隊Ⅱ

7月10日(木)、万里の松原松陵地区と酒田北港緑地展望台で「クロマツ探検Ⅱ」を実施しました。当日は、宮海太鼓を演奏後、玄関前で「エイエイオー」と全員で大きな掛け声を上げ、バスで出発しました。



クロマツ探検に行くぞ、お～!

万里の松原松陵地区では、前日に林野庁長官から「国民の森づくり推進功労者」の感謝状を受賞した地元森林ボランティア団体「万里の松原に親しむ会」の三沢会長の案内で、ここは昔、砂だったことなど万里の松原の歴史や

保全活動について、園児向けにわかりやすく説明して頂いた後、万里の松原の中を歩いて探検しました。次に、酒田北港緑地展望台では地上18mの7階の展望室から日本有数のクロマツ林を眺め、保育園や酒田の町並みが見えないくらいクロマツ林がいっぱいあるので、海からの強い風や、飛んでくる砂(飛砂)などからみんなを守ってくれていることを、田畑生態系管理指導官が説明しました。



三沢会長からの説明



みんな元気に探検できたね



樹木の葉っぱを観察しよう



酒田・西荒瀬保育園 クイズに挑戦

酒田市の西荒瀬保育園(佐藤まよ子園長)で12日、年長児らが朝日自然センター職員の出題する森林クイズに挑戦した。写真と鳥の名前や鳴き声を当てたり、スズメ、カラス、ツバメなどの特徴にぴったりの木を当てたり、スズメ、カラス、ツバメなどの写真から鳥の名前や鳴き声を当てたりした。阿部真乃(まの)さんは「スズメアオキキの鳥は分かった。楽しかった」と話していた。園児30人その保護者が参加した。朝日自然センターの職員が、雨のため室内に変更になった。

山形新聞に掲載されました!



元気な宮海太鼓の披露です



雨上がりのクロマツ林を探検!

朝日自然塾2 大井沢のカッチャバ湿原で 楽しい昆虫観察

6月28日(土)、西川町大井沢で、薄曇りの昆虫観察日和の中、山形市、寒河江市からの参加者、小学生親子6名とスタッフ7名により開催されました。



ハッチョウトンボいるかな?



ハッチョウトンボ捕獲、お見事!

捕まえて安全に観察できるよう処理をしたおかげで、親子でじっくり見ることもできました。

午前の部の昆虫観察を終えて、セミナーハウスに移動し、子供たちは「いただきます」のあいさつの後、早速、お楽しみのおいしいお弁当を口いっぱいにはおぼっていました。

カッチャバ湿原観察

カッチャバ湿原は浅い水環境で、ハッチョウトンボの生息に適しています。これまでのイベントでは、あまり見る事の出来なかった成虫の体長2cmほどの小さなトンボを子供たちと一緒に近くで観察することが出来ました。また、講師が、刺されると危険なクロスズメバチを捕まえて安全に観察できるよう処理



左から秋山講師・横倉講師

おもしろい昆虫の話

午後からは楽しみにしていた山形や世界の昆虫の話です。

講師の横倉さんからは、次々に見たこともない標本と生体の説明があり、お話が終わるまで子供たちはテーブルの前に身を乗り出したまま釘づけとなっていました。

大井沢自然博物館見学

最後に、大井沢自然博物館内にある色々な動植物について講師の大山さんから解説がありました。参加者は初めて見る猛禽類などの大きさにビックリしながらも、たくさんのことを学んでいました。

今回は大井沢自然博物館のみなさんに講師を務めていただきました。



大山講師の解説

緑の回廊 土湯の森自然再生実施協議会



第8回自然再生実施協議会

6月23日(月)、平成19年度から第8回目となる協議会を開催しました。座長の山形大学農学部小山教授をはじめ、地元住民、関係団体、行政機関からの委員8名と、事務局12名で最上川スキー場跡地における平成25年度事業報告及び平成26年度事業計画等について協議しました。

会議では、植生モニタリング調査の結果を踏まえた意見や、今後の自然再生の方法、また、この最上川スキー場跡地の将来像を、どのようにすべきか等の活発な意見交換が行われ、更にエリアの利用に関して、意見をいただきながら検討していく方向性が出されました。